

# 令和7年度 学校関係者評価

学校名	北海道伊達高等養護学校
-----	-------------

組織名	学校運営協議会
評価者	
学校運営協議会委員(3名)	

## 1 本年度の重点目標

「一人一人の自己理解を深め、主体性や思考力、可能性を引き出す教育活動の推進」	
1 学習指導 共有した生徒の実態に基づく「指導と3観点評価の一体化」による授業改善と授業力向上	
2 生徒指導 教務・舎務一体の課題予防的生徒指導の推進と発達支持的生徒指導による全人的な育成	
3 進路指導 「進路の手引き」生徒用「進路ファイル」各種研修を活用した教務・舎務一体のキャリア教育の推進	
の重 適 点 切 目 さ 標	・グラウンドデザイン、学校運営シラバスに照らし合わせて、適切な目標だと思います。 ・保護者、生徒、教職員による学校評価アンケートの評定平均がどのカテゴリーにおいてもおおむね評価が上がっていることから、重点目標の設定、達成度ともに適切だと考えます。

## 2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成 状況	取組の 適切さ	改善の方策	自己評価の結果の 内容の適切さ	取組の適切さ	今後の改善方策の 適切さ
大項目	中項目	小項目						
教育活動	学習指導	3観点評価により、主体的・対話的で深い学びが進んだか	3	3	地域や各学校と連携しながら、外にも開かれた学習環境を整備し、主体的に学べる機会を作る。 校内研究で整理したシラバス及び単元計画を次年度は検証し、授業の工夫改善に向けた取組を進める。	3	3	4
		シラバスの整理から、何ができるようになるか明確にできたか	3	3				
		教育課程の実施にあたり、指導方法・内容を生徒の実態から見直し、授業改善とシラバスを改善したか	3	4				
	生徒指導	自己肯定感や規範意識を高める教育相談力向上の実践ができたか	3	3	生徒指導提要に基づいた基本的な生徒対応の向上に加え、生徒の人権や体罰・不適切な指導の根絶に向けた研修等を実施し、生徒指導力の向上を図る。	4	4	4
		学舎で目標・評価等を情報共有し、発達支持的生徒指導ができたか	3	4				
		生徒指導提要に基づき、保護者・寄宿舎・関係機関等と連携できたか	3	4				
	キャリア教育	「進路の手引き」を活用しキャリア発達を促すことができたか	3	2	校内研修やPTA活動を通して、進路の手引きや進路ノートの活用について、全教職員及び保護者で共通認識ができる機会を持つ。 生徒や保護者のニーズ、社会から求められている力を把握し、生徒のキャリア発達を促す具体的な施策や支援体制を強化する。	3	3	4
		「職業」や実習、進路ファイルを活用し、段階ごとの意欲を形成できたか	3	3				
		生徒が力を発揮できる、ニーズに応じた職場を開拓できたか	3	2				
評価者の意見等	・教育活動全体を通して、生徒のことを第一に考え、生徒の実態に即し、適切な取組をしていると感じます。 ・キャリア教育の実践は、まだ高校生である生徒に対し、とても難しいことと思いますが、試行錯誤しながら取り組んでいることがよく分かりました。 ・保護者、生徒のニーズに沿った進路指導が適切に進められている。保護者評価の数値からも読み取れます。 ・生徒アンケートの結果から、分かりやすい授業の評価が非常に高いことから、今後も職員の皆様には自信を持って授業改善を進めていただきたいです。 ・令和6年度と比べ、全体的に向上している点において適切に進められていると思います。今後の改善という点では達成状況から導き出されたものであり、最善と感じます。							
学校経営	学信 校頼 づさ くれ り	HPや各種通信等による効果的情報発信ができたか	3	3	伊達市や各報道機関の協力を得て、SNSを活用しながら、地域への更なる広報活動に努める。 藍育ファンディングを軸とした藍に関する全体計画を基に、地域や近隣校との交流や協働学習を増やしていく。	3	3	4
		藍を活用した活動や自治会、近隣校との協働ができたか	3	3				
		他校の特別支援Coの育成及び地域の教育力向上に貢献できたか	3	3				
	組織 運 営	藍の活用、SDGsの視点を取入れた全校的な取組ができたか	3	3	学校評価やグラウンドデザインを基にした、各分掌毎の具体的な改善を図る。 職員間の尊重と対話を大切に、職員に対するメンタルヘルス対策の充実を強化する。 チームで業務を推進する意識の向上と協働体制を構築する。	3	3	4
		前年度の学校評価に基づいた学校経営の改善ができたか	3	3				
		教務と寄宿舎、保護者や地域などお互い多様性を尊重し【和】を重んじて、協働に向け意識して業務に取り組めたか	3	2				
資 質 職 員 上 の	特別支援学校高等部としての授業力向上と学び続ける研修ができたか	3	2	不祥事防止委員会を中心とした計画的な研修を実施し、更なる服務規律の徹底を図る。 働き方改革コアチームを中心として、具体的な行事、業務の見直しや効率化やスリム化を図る。	3	3	4	
	ハラスメントの根絶、服務規律の徹底、法令順守の取組がなされたか	3	3					
	教育課程の検討や働きがいと業務の効率化やスリム化が両立できたか	2	3					
評価者の意見等	・藍を活用した活動や積極的に地域との関わりをもとうとする学校経営はとても好感が持てますし、今後も継続してもらいたいと思います。 ・教職員に対する業務改善等の取組も良い方向になることを願っています。 ・保護者評価の項目が昨年度と比較し上昇していることから、職員の資質向上に向けた取組の効果が適切に進められていると感じます。 ・教育活動同様に評価が向上しており、適切に進められていると思います。今後の改善に向けた方策についても同様です。							